

出西地区では「健康・スポーツ」「文化芸術」をはじめとして子どもから高齢者まで趣味や生きがい、健康づくりのためにグループや各種団体により多様な活動が行われています

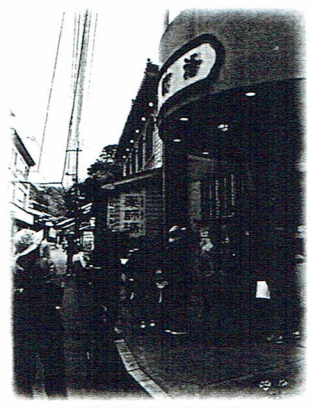
○承認を受けるための4つの要件○

- 地域と密接に連携
- 地域活動に協力
- 定期的な活動
- 地域住民に広くメンバーを募集

今回は、令和3年3月に発足された「てくてくクラブ出西」（代表：青木誠さん）を紹介します。

てくてくクラブ出西の活動は、年間を通じてウォーキングを月1回程度行われます。活動人数は、現在16人です。各コミセンのウォークイベントへの参加や、地区内をその都度コース変更してウォーキングを楽しんでおられます。ぜひ地域の皆さんも、てくてくクラブに参加してみませんか？

去る11月8日（土）には、日本遺産の「福光石切り場見学と温泉津温泉まち歩き」のウォーキングイベントを開催。この事業は、令和7年度地域で取り組む生涯スポーツ推進事業の助成を受けてのイベントでした。バスで現地まで行き、ウォーキングをしながら交流を深められました。



温泉津温泉まち歩きの様子

中学生日記



寄稿：斐川西中学校3年生 仲本真凛さん

人とつながる 地域がつながる出西



島根県原子力防災訓練（11月9日）



求院1自治会のDIG訓練（11月20日）

今号の掲載内容

- 人とつながる 地域がつながる出西……………1
- 雨のち晴れ令和7年度出西地区文化祭……………2
- 同推協だより、コミセン往来……………3
- リレーエッセイ……………4
- 新・出西の歴史探訪……………5
- 出西トピックス、新しい民生委員児童委員が決まりました……………6
- 出西☆きりり②「多々納 齊」……………7
- 表彰おめでとうございます、活動グループ団体紹介③……………8
- 4コママンガ「中学生日記」ほか……………9

11月9日（日）に実施された島根県原子力防災訓練（住民避難訓練）に出西地区から15人が参加しました。実際の避難場所は広島市ですが、今回は訓練のため佐田行政センターを「避難退避時検査場所」とし、旧乙立小学校を「避難所」として訓練が行われました。もしもの時に備え、各家庭に配布されています「原子力災害発生時の出西地区の避難計画」をご覧ください、避難経路や避難場所などについて確認をお願いします。

また、11月20日（木）に求院1自治会、11月30日（日）に神守1～5自治会が防災研修会を開催されました。本ページ掲載の求院1自治会はDIG訓練を行いました。（神守の研修は6ページに写真掲載）

出西地区災害対策委員会は、今後も住民参加の訓練の実施や自治会単位で行われる訓練等に協力してまいります。

祝 表彰おめでとうございます

令和7年度出雲市青少年育成推進大会（主催：出雲市青少年育成市民会議）が、11月16日出雲市役所で開催されました。



出西地区からは、大谷里山を活かす会会長の勝田治男様（下出西7）に青少年育成者等功労表彰（青少年育成者の部・団体）が贈られました。

9月12日、令和7年度出雲市総合社会福祉大会において、次の方々に表彰状が贈られました。

出雲市社会福祉協議会会長表彰	池田美和子 様 才木すみ子 様
----------------	--------------------

9月27日、しまね県福祉大会において、次の方に表彰状が贈られました。

令和7年度島根県老人クラブ連合会会長表彰 一般功労表彰	竹下 勇 様
--------------------------------	--------

10月31日、島根県交通安全県民大会において、次の方に表彰状が贈られました。

一般財団法人全日本交通安全協会会長表彰 交通安全賞「緑十字銅章」	金山 基 様
-------------------------------------	--------

○香典返し 金一封（届出順）

出西地区自治協会へ	R7.12.12現在
飯塚 明人 様	（求院3）
（故人）矢野 文一 様	（求院2）
（故人）伊藤 晴子 様	（下出西7）
橋本 久人 様	（千家4）
湯原 俊夫 様	（神立1）

○寄贈

後藤和加子 様	（花器他）
高橋 孝治 様	（図書）

ありがとうございました。

・出西陶芸クラブ 様
・神守神和会 様
・西野野球スポーツ少年団 様
・森 恒友 様
・グラウンドゴルフクラブの皆様
・中島 春正 様
・竹内 克美 様
・湯原 信二 様
・求院寿昌クラブ 様
・やまびこの会 様
このほか、登録団体の皆様に花壇の水やりに協力をいただきました。

編集後記

○「人とつながる 地域がつながる出西」をテーマに、住民参加型の防災訓練や、文化祭の様子を紹介しました。地域の人と人とのつながりの輪が広がっています。

○今後とも、誌面を充実させるため「出西トピックス」などへの情報をお寄せください。お待ちしております。

（スタッフ一同）

出西トピックス

地域での防災研修会の開催と原子力発電所視察

11月20日（木）に出西コミュニティセンターで求院1自治会の防災研修会が開催されました。日本赤十字社島根県支部から講師を迎え災害図上訓練として地図を使って危険箇所の把握や防災対策等について活発な話し合いが行われました。

また、神守地区では5自治会合同で11月30日（日）に消防署及び市防災安全課を招いて防火並びに水防の研修会が実施され、48人の方が熱心に聴講されました。

出西地区災害対策委員会では11月22日（土）に島根原子力発電所の視察を実施し11名が参加しました。島根原子力館で原子力発電について学習した後、発電所内を見学しました。特に防災対策として津波や竜巻、山崩れなどの対応策を見学し、参加者から専門的な質問や意見が寄せられ、有意義な視察となりました。



神守地区5自治会合同の防火・水防研修会（11月30日）

西野小2年生がコミセンで校外学習

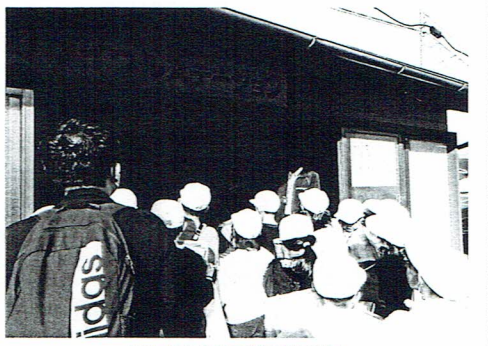
11月28日（金）、西野小学校2年生15人が「校外学習・まちたんけん」で出西コミュニティセンターに来館しました。

児童たちは、まず館内にあるリサイクル倉庫や防災備蓄倉庫等について説明を聞いてから、施設内の各部屋を見学しました。児童たちは、興味深く話を聞いていました。

児童たちの質問コーナーでは、出西コミュニティセンターについて知りたいことを事前に考え、手を挙げて質問をしました。

コミュニティセンターに初めて訪れた児童もいたようで、コミセンで開催するイベントのことや、文化活動以外に行政のお手伝いを担っていることについても紹介しました。

コミュニティセンターは、今後も、西野小学校の子どもたちが、地域の中で、仲よく学び、活動できる場となるよう協力してまいります。



リサイクル倉庫の説明を聞く児童

新しい民生委員児童委員が決まりました

民生委員児童委員として、次の皆さんが12月1日付で厚生大臣から委嘱されました。任期は3年です。

勇退される池田美和子さん（中出西）、白根富雄さん（下出西）、才木すみ子さん（求院）に感謝申し上げます。



民生委員・児童委員（敬称略）	
氏名	担当地区
笠谷 真文	上阿宮1～4
原 正三	下阿宮1～3、上出西1
金田 兼佳	上出西2、中出西1～7
大菅 一美	下出西6～10
樋野 篤	氷室1～6
小村 哲雄	神守1～5
光内 豊	求院1～5
山根 陽一	神立1～4、ニュータウン、5
津戸 園枝	千家1～4
主任児童委員	
間賀部 都	主に西出地区

下出西1～5については、近く決定の見込みです。

出西地区同推協だより

出西地区人権・同和教育推進協議会
会長 玉木 一好



“人について”考える時間を日常に
～研修会参加を通して～



島根県外国人サポーター堀西雅亮さん

本協議会では、人々の人権意識の向上を図り、暮らしやすい町づくりをめざして、取り組みを進めています。その方策として、「振り返り」や「多様な考えを知る」「学ぶ」ことができる研修や学びの場を設けてきました。

さる9月12日に、人権・同和教育の視点で「推進大会（研修会）」を開催しました。

今回は、近年日常でも外国の方に接する機会が増えていることを考え、「多文化共生」をテーマにしました。また、主旨が近いということで「まちづくり交流部」との共催で行いました。

講師には、島根県外国人サポーター堀西雅亮様をお願いしました。

自らの体験や実践を踏まえて、やさしい語り口で話をしていただきました。

①相互理解には、コミュニケーションを深めていくことが欠かせないこと。

②文化や考え方の違いを理解し、互いを尊重していくこととする姿勢が大切なこと。

③「困っているから、何かしてあげる」ではなく、互いに尊重し、地域の一員として共に生きていくことを考える大切さ。などが、個人的には意識に残りました。

偏見や無意識の排斥などが、住みよい町づくりの妨げになることはよくいわれています。

少子高齢化・働き手不足など直面する課題は目前に迫っています。そんな中、「多文化共生」の考えには、世の中違いはたくさんあるが、基本的には「世界（地域）の人が、日本（地域）に住みやすいまち」を目指しているように思います。

今回の講演は1時間ほどでしたが、一つのテーマについて、集中して考える時間でもありました。日々安閑と過ごしている自分にとって、新鮮さや脳の活性化をもたらしてくれた貴重な時間にもなったと思います。

団体名・自治会名	開催日	研修内容
ふれあいサロン 出西まなびがーの会	6月12日	ビデオフォーラム
出西コミュニティセンター 女性部やまびこの会	7月11日	ビデオフォーラム
下出西7自治会	10月1日	講話
神立2自治会	令和8年2月1日（予定）	講話

今年度実施された団体研修、自治会研修の紹介をしました。
研修を希望される自治会等がありましたら、事務局（出西コミュニティセンター ☎72-9204）までご連絡ください。

コミセン往来

松江市シルバー人材センター・モルツウェル株式会社を訪問
（運営委員会・事業委員会合同研修）

12月4日（木）に16名が参加し合同研修を実施しました。
午前中は、高齢者の社会参加と生きがい対策について松江市シルバー人材センターを訪問し、高橋事務局長から現状・課題について説明を受けた後、しめ縄づくりやAIデマンドバスの受付業務などを視察しました。シルバー人材センターは剪定や草刈り、換・障子張り替えのイメージがありますが、様々な業種で高齢者が活躍されていることに驚きました。



しめ縄づくりを見学（松江市シルバー人材センター）

午後は、松江市北陵町のモルツウェル株式会社を訪問し、野津慎社長（中出西出身）から事業概要や企業理念についてのお話を伺いました。同社は真空調理した食材を全国400の介護施設へ、1日2万食提供し、業界1位を目指して努力されています。また、在宅高齢者配食サービスやドローンを使った買物弱者支援など新しいビジネスモデルを開拓されています。

常識にとらわれない発想で高い目標を掲げ、目標に向いていく姿は、地域づくりにもつながるものであると実感しました。

雨のち晴れ～令和7年度出西地区文化祭～



斐川西中学校吹奏楽部の演奏中



盛りあがった勝田伊吹さんの歌謡ショー



敬老会での「じゃんけん大会！」



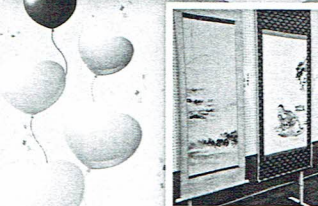
図書館ユニットTU「大きなかぶ」



「出雲農林高校移動動物園」動物とふれあう子どもたち



出西阿宮分団による放水体験



後藤玉雲さんの掛け軸・屏風を展示



出西軽トラ市「人とつながる地域が広がる」

10月4日（土）、5日（日）、令和7年度出西地区文化祭を開催しました。

4日は一時、警報が発令されるほどの大雨となりましたが、同時開催の出西地区高齢者の集い（敬老会）には多くの方の来場がありました。雨の中、アトラクションに出展いただいた3団体（斐川西中学校吹奏楽部、出西保育園、勝田伊吹さん）をはじめ、軽トラ市や各コーナーにご協力いただいた皆さまにお礼申し上げます。

雨の中、楽器が濡れないようにブルーシートを手にかけてくださった方、ぬかるむ中を駐車場係として安全に来場者を誘導してくださった方。その他にも多くの皆さまが様々な気遣い合う場面が多く見られました。

5日は一転、秋晴れとなり、今年は特に子どもと一緒に来場された家族連れの方が多く見られました。来場された皆さまには農林高校移動動物園をはじめ、様々な催しを楽しんでいただきました。あぐりバンドや図書館ユニットTUのステージや発表会での抽選会など会場が一体となって楽しんでいただきました。

館内では、幼稚園、小中学校の作品、地域の皆様の作品に加え、地域団体の活動紹介、青木康一様（下出西6）から、ご寄贈いただいた後藤玉雲さんの掛け軸、屏風をご覧いただきました。また、小中学生による御茶席では、お点前の披露、登録団体の皆さまの発表会など、日頃の成果の発表の場となりました。

雨に始まった文化祭でしたが、その中で多くの思いやり、支えてくださるボランティアの皆さまの姿に地域の力を感じました。今後も地域の交流の場となる文化祭を企画してまいります。

準備、運営、片付けまで多くの方々にご協力をいただきました。関わっていただきました多くの皆さまに感謝申し上げます。

出西コミュニティセンター文化部長
高橋 真一

斐川西中生 大活躍



斐川西中学校職場体験

9月24日から26日までの3日間、斐川西中学校3年生2人が出西コミュニティセンターで職場体験学習を行いました。コミュニティセンターの業務内容や地域についての学習の他、文化祭の表示やポスターの作成、抽選会の準備に熱心に取り組みました。

また、10月4日、5日の文化祭でも多くの中学生がボランティアとして活躍。昨年に引き続いて参加してくれた生徒は「文化祭のボランティアがとても楽しかったので、今年も来ました」と話してくれました。

職場体験、文化祭でのボランティアを通じて、中学生のみなさんが素直に、熱心に話を聞き、作業に取り組む姿に触れることができました。

出西 きらり

県内外で活躍中の出西にゆかりのある人を紹介していきます。

第2回

関西芸術座 俳優

多々納 齊さん



昭和31（1956）年生まれ・下出西出身

皆さんは、9月29日から始まったNHK連続テレビ小説（朝ドラ）「ばけばけ」をご覧になっていますか。ドラマの中で使われる出雲弁をどう聞いていらっしゃるのでしょうか。出演される役者さんへの方言指導をしておられるのは、下出西出身の多々納齊さんです。

多々納さんは、旧出西小学校、斐川西中学校、出雲高等学校（演劇部）卒業。桃山学院大学在学中に劇団「関西芸術座」に入団し、舞台を中心に演劇・映画・テレビドラマに出演しておられます。

「ばけばけ」が始まる前の9月初旬に、多々納さんに「コミセンからの質問」に答えていただきました。

子どもの頃の出西の思い出は・・・？

昭和31年生まれ私の私は、子どもの頃は野山を走り回り、家の前にあったタバコの乾燥場や近くの久武神社で遊んでいました。小学校のとき、大雨で山が崩れ（昭和39年7月）同級生が亡くなったのが悲しい思い出です。

俳優になった経緯は・・・？

大学進学のため大阪に行き、その後、劇団関西芸術座に入団。それから45年近く役者稼業を続けております。40代くらいから出雲ことばの仕事が増え始め、朝ドラ「ばけばけ」が8～9本目ぐらいになると思います。＜以前の朝ドラ「だんだん」の方言指導も多々納さん。＞

「ばけばけ」など出雲ことばの方言指導で苦労されることは・・・？

出雲ことばを思い出し、調べながら勉強しつつ、全国の皆さんに通じるように考え、頑張っております。今回は、出雲弁、武士ことば、標準語、それに鳥取ことばまで混ざっていきます。なるべくドラマが自然に流れるように、苦労、苦心の毎日です。

出西（ふるさと）への思いを一言・・・。

年に1、2度墓参りに帰りますが、下出西はあまり変わらず、すーっと子どもの頃の心に帰れます。いつまでもこの風景が変わりませんよう、願っています。

「ばけばけ」について一言・・・。

「ばけばけ」是非ご覧ください。まだまだ撮影が毎日続きます。応援してくださいね。私も何処かに出てきますので、探してみてください。

文責：神門 洋子



小泉八雲とセツの肖像（熊本時代）
「画像提供：小泉八雲記念館」

リレーエッセイ

昭和20年、私は軍人になって日本を守るという一心で、大社中学に入学した。上級生は、軍需工場へ動員され、1年生と2年生だけの学校だった。週のうちの半分は、食糧増産と軍関係の仕事の手伝いに動員されていた。

7月28日は、暑い日だった。私たちはこの日、三本松山の西側斜面のかなり下の方に、飛行場関係の陣地を作る作業に動員された。山の下の下から、ここまで、重い松の板を担ぎ上げるのが、私たちの仕事だった。係のこまで、「重いなら2人で一枚を運んだら」と言われたが、戦地で戦う兵隊さんのことを思えば、ほとんどの人が、1人で一枚運んでいた。

屋敷を終えた頃だったと思う。突然、西の空から数機の、米飛行機が現れ、低空飛行で、飛行場の諸施設を攻撃した。攻撃を終えた飛行機は、東の空から大きく旋回し西へ戻り、再び攻撃する。こうしたことが数回繰り返された。これに対し我が軍の攻撃は、多分、機関砲だと思われたが、数秒おきにポンポンと打ち上げられた。洗脳された軍国少年にも、それが互角の戦いとはとても思えなかった。

攻撃を終えた敵機は、ゆううつと東の空へと飛び去った、と思ったが、最後の機は、方向を変え、私たちの山中への攻撃を始めた。低空からの攻撃には迫力があつた。弾は私たちの十数分前方に落ちていた。恐ろしさに、私たちは飛行機が東の空に消え去るまで、手を取り合い、肩を寄せ合いながら、ひと時を過ごした。攻撃中、沢山の葉が世の上に落ち、「ザワザワ」と音が聞こえたが、その音が、これで、すべてが終わりか、というサインのようにも聞こえた。

8月15日、この日も暑かった。玉音放送は近所の人と一緒に、我が家で聞いた。そして泣いた。大声で泣いた。

近所の人が帰り、一人になった時、何故か「やっぱり」という言葉が浮かんだ。

出西地区（併川）から、県外に転出された清水清治さんに、寄稿いただきました。

戦後80年
それぞれの、あの日

清水 清治

新・出西の歴史探訪②

大谷里山を活かす会の12年

本年度で12年間続けた「大谷里山を活かす会」の活動を終了することになりました。

この会は平成26年3月、上出西大谷地区にある元自宅裏山の持ち主（井上陽一さん）の荒れていく里山を整備・活用したいという思いに賛同した仲間と準備を始め、林野庁の森林整備補助金の受け皿として設立した組織です。

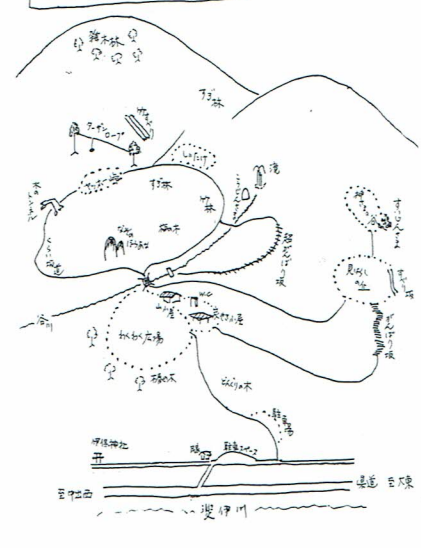
同年6月から、男性6人、女性3人のメンバーで本格的に活動を開始、雑草木の刈り払い等森林の整備をするともに、炭焼き・シイタケ栽培に利用する原木の間伐等に取り組みました。さらに森林保全への理解を広げる活動も始め、炭焼き・シイタケ栽培・里山見学・里山たんけん等の研修会を、年間8回程度実施しました。

平成29年、3年間の国からの補助金が終了し、民間その他の補助金を受けて活動を継続する一方、理解を広げる活動を大人中心から子ども中心の活動にしました。地域の未来を担う子どもたちに、豊かさと共に厳しさもある自然の中でいろいろな人と助け合って乗り越えていくことにより、生きる力を身に付けてほしいという思いからです。そのために里山たんけんにも冒険的な要素も加え、急坂を登る「がんばり坂」、急斜面をビニールで滑り降りる「すべり坂」、崖に垂らしたロープで登る「超がんばり坂」、谷川の丸木の橋を渡る「丸木橋」、空中に張ったロープにぶら下がって移動する「ターザンロープ」等を設置し、常に安全を確認しながら年間4～8回実施してきました。



大谷里山で記念撮影☆

大谷里山の絵地図



会員も順次入れ替わり、近年は男性7人女性3人で活動してきました。12年間で66回実施し、約3,200人が参加、皆さんに喜んでいただき大きなけがもなく終了することができました。

活動に参加していただいたあい川・出西・わらべのうち各保育園、西野幼稚園の子どもたちをはじめ地域の皆様、支援いただいた出雲市社会福祉協議会・出西地区自治協会・出西コミュニティセンター、支援スタッフとして活動を支えていただいた多くの皆様本当にありがとうございました。

文責：大谷里山を活かす会会長 勝田治男



超がんばり坂

「大谷里山を活かす会」は、社会貢献活動が高く評価され、丸山達也島根県知事から「令和4年度島根県民いきいき活動奨励賞」が授与されました。

『継承』～想いを守りつなぐ～

万九千社立虫神社神代神楽保存会副会長

矢野 俊之（神立2）

この地「神立」に生まれ物心ついた頃からいつも近くに万九千神社の存在がありました。

そこは子どもの頃の遊び場であり、紐落としや入学卒業などの成長の節目の御祈念の場であり、春夏秋冬のお祭りの場でした。特に一番のイベントは神在月の「からさで祭」、いわゆる「万九千さん」でした。

このような環境で育った私は現在、神社責任総代、春祭り「大なほらひ」実行委員会会長、万九千社立虫神社神代神楽保存会副会長などの役に就かせていただいております。必然と神社中心の生活を送っています。私の役目はこの伝統ある地の人々の想いを、将来を担う子どもたちにつないでいくことだと考えています。

【その意：神楽の継承】～子ども神楽団の創設～

地元の伝統芸能である出雲神楽の後継者育成を狙いとして、2019年に子ども神楽団を結成しました。現在は中学2年から小学2年まで総勢11人で活動しています。こうした機会を通じて子ども



子ども神楽団

達に地元への愛着心を育むことで、将来、地元への定住に繋がることを狙いとしています。今では春と秋の祭りで上演しています。

【その意：祭りの継承】～春祭り「大なほらひ」の復活～

万九千神社では戦後まもなくまで「べべんこまつり」として春祭りが行われていました。神田では子牛を使い田おこしから田植えを行い、稲作をはじめとするあらゆる産物の豊作、なりわいの繁栄を祈り、境内では御神酒を酌み交わし食事を共にして時を忘れ大いに賑わったとされています。しかし、社会構造の変化や後継者不足によっていつしか途絶えました。

私たちは2016年に酒造業や飲食業、農業関係者、地元有志によって約60年振りに春祭り「大なほらひ」として復活させました。この祭りは地元の「酒」と「食」を題材にし、出雲の産業、観光振興を目的に、そして地域のふれあいの場を創出しコミュニティの活性化、住みやすい街から健やかな子どもたちが育つことを願って開催しています。今では約10,000人が来場する万九千の春の風物詩となっています。来年度のGWの春祭りにぜひお出かけください。



春祭り「大なほらひ」